

第 57 回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展(2017) 日本館展 作家は岩崎貴宏、キュレーターは鷺田めるろに決定

国際交流基金(ジャパンファウンデーション)は、2017年5月13日から11月26日にかけてヴェネチア(イタリア)にて開催される「第57回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展」の日本館展示を主催いたします。このたび日本館の展覧会概要が決定しましたのでお知らせいたします。今後、展示作品の詳細など決定しましたら随時ご案内申し上げます。

第 57 回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展 日本館展示 概要

タイトル： Upside-down Forest / 逆さにすれば、森(仮)
作家： 岩崎貴宏(いわさき たかひろ)
キュレーター： 鷺田めるろ(わした めるろ) 金沢21世紀美術館キュレーター

【会期】2017年5月13日(土)～11月26日(日)

【主催】国際交流基金



《アウト・オブ・ディスオーダー(川崎シリーズ/日本ゼオン)》
2014年 川崎市民ミュージアム蔵
©Takahiro Iwasaki, Courtesy of ARATANIURANO



《リフレクション・モデル(巖島)》2013-14年
ヴィクトリア国立美術館蔵
青森公立大学国際芸術センター青森での展示風景
©Takahiro Iwasaki, Courtesy of ARATANIURANO

ヴェネチア・ビエンナーレ(Biennale di Venezia)について

ヴェネチア・ビエンナーレは、イタリアの島都市ヴェネチアの市内各所を会場とする芸術の祭典です。1895年に最初の美術展が開かれて以来、120年以上の歴史を刻んでいます。近年、世界各地で美術を中心に、国際的な芸術祭が開催されるようになってきていますが、ヴェネチア・ビエンナーレはそれらのモデル・ケースとなった最も著名な存在です。「ビエンナーレ」とは「2年に一度」を意味するイタリア語で、同様な芸術祭の多くが「ビエンナーレ」や「トリエンナーレ」(3年に一度)と命名されているのは、ヴェネチア・ビエンナーレに範をとったものとされています。現在、美術展、建築展、音楽祭、映画祭、演劇祭などを独立部門として抱えるようになりましたが、そのうち美術展は、最先端の現代美術の動向を俯瞰できる場として、また国別参加方式を採る数少ない国際展として世界の美術界の注目を集めています。

第57回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展

2017年5月13日から11月26日

総合キュレーター: Christine Macel(クリスティン・マセル)

公式HP: <http://www.labiennale.org/en/biennale/index.html>

●本事業に関するお問い合わせ: 国際交流基金 文化事業部 事業第2チーム(担当:大平)

Tel: 03-5369-6063 / Fax: 03-5369-6038 / E-mail: venezia@jpf.go.jp

●取材・広報用画像のお問い合わせ: 大西晶子 Tel: 090-9621-5235/ E-mail: venezia@jpf.go.jp

< 略歴 >

作家: 岩崎 貴宏 (いわさき・たかひろ)

1975 年広島県生まれ、広島県在住。広島市立大学芸術学研究科博士後期課程修了。エジンバラ・カレッジ・オブ・アート大学院修了。

2015 年、ニューヨークのアジアソサエティにて個展、同年、黒部市美術館と小山市立車屋美術館で個展を開催。第 10 回リヨン・ビエンナーレ (2009)、ヨコハマトリエンナーレ (2011)、第 7 回アジア・パシフィック・トリエンナーレ (2012)、2013 アジアン・アート・ビエンナーレ (国立台湾美術館)、第 8 回深圳彫刻ビエンナーレ (2014) などの国際展、「六本木クロッシング 2007 未来への脈動」(森美術館、2007)、「日常の喜び」(水戸芸術館現代美術センター、2008)、「trans×form—かたちをこえる」(国際芸術センター青森、2013)、「日産アートアワード 2015」(BankART Studio NYK) などグループ展への参加多数。



Photo Kuniya Oyama

キュレーター: 鷺田 めるろ (わした・めるろ)

1973 年京都府生まれ、東京大学大学院美術史学専攻修士課程修了。

地域や参加をテーマに現代美術や建築の展覧会を企画する。主な企画に、妹島和世+西沢立衛/SANAA (2005)、アトリエ・ワン (2007)、イエッペ・ハイン (2011)、島袋道浩 (2013)、坂野充学 (2016) の個展や、「金沢アートプラットフォーム 2008」(以上すべて金沢 21 世紀美術館) などのグループ展がある。2010 年、金沢青年会議所が主催して町中各所で展示する「かなざわ燈涼会」で岩崎に出品を依頼し、町家で展示した。



<作家紹介>

岩崎は、日常的に身の回りにあるものをよく作品の素材に使う。中には雑巾や髪の毛などゴミに近いものもある。それに「見立て」のように別のイメージを重ね合わせることにより、一見無秩序に見えるものにも意味を持たせる。例えば、積み上げられた雑巾が自然の山に見えたり、本が建物のように見えたりする。ものの見え方の転換が起こることが、見る人を楽しませる。非常に細かな手仕事も岩崎の特徴だ。雑巾から引き出した糸や本の葉などで、クレーンや鉄塔をつくる。その細かさは見る人を驚かせ、作品にもっと近づいて見たいという気持ちにさせる。

日常的素材、見立て、繊細な手仕事といった岩崎の作品の特徴は、日本的とも言える。だが同時に、広島で生まれ、現在も広島を拠点に制作を続ける岩崎にとっては、こうした特徴は広島という特別な都市の歴史とも関係している。岩崎が身の回りのものを使うことには、原爆によって変形し、意味を変えられてしまった日用品からの影響がある。見方によって同じものを別の意味に読み替えることは、広島が原爆の前後で軍事都市から平和都市へと180°意味を変えたことを踏まえている。

さらに岩崎は日本の地方が置かれた状況とも向き合ってきた。発電所から山をつたって都市部へと電気を運ぶ電線の鉄塔や、海沿いに押しやられた化学工場群といったモチーフの選択は、地方からのまなざしを示している。ヴェネチアの街は潟に打った無数の杭の上にてできており、そのことから「ヴェネチアを逆さまにすれば森になる」という言葉があるという。展覧会タイトルには、ヴェネチアの地で作品を上からだけでなく下からも見ること、日本を陸からだけでなく海からも見ることの意味を込めた。

「日本館」を訪れる多くの来場者に、「日本的」な表現を、独自の方法で広島の歴史や日本の地方の状況と繋いでいる岩崎の作品を楽しんでもらえたらと願う。

鷺田めるろ

<作家からのメッセージ>

私は、広島で生まれ育ち、現在も広島を拠点に作家活動を続けています。

今回、キュレーターの鷺田めるろさんより、展示プラン作成に際し、日本館は展示しにくいとされているかもしれないが、独特な建築の面白さと対話した展示を目指したいという、なんだかドキドキするようなお話をいただきました。

改めて日本館の断面図を見ますと、1階のピロティから伸びた4本の柱は、そのまま2階、展示室の壁になっており、1階の天井でもある2階の床が、まるで海中と地上を分ける境界のように感じました。

潮汐によって視点を変化させる広島の厳島神社や、ヴェネツィアの街のように、海拔0m から眺める風景を、1階の天井中央に空いている穴から見たいと考え、プランを制作しました。

一つの展示を、見上げる/見下ろすという異なる視点を作ることで、透視図法のように一つの視点による整合性のとれた空間ではなく、複眼的に展開される空間体験を生み出したいと思っています。

鳥瞰的なスケールの把握や、虫瞰的な細部の観察、魚瞰的な空間の歪みといった視点の切り替えは、鑑賞者に息を殺してしゃがませたり、近づいたり離れたりと、身体と眼球を巧みに動かすことを自然と促します。また人工と自然、秩序と混沌、歴史と現在といった相違点がお互いを補完しつつ、事象のはかなさや、移ろう時間の流れ、トロンプ・ルイユ的な知覚の変換作用といった点にも気付いてもらえればと思います。

そして、なによりも楽しんでいただける展示が出来ればと思っています。

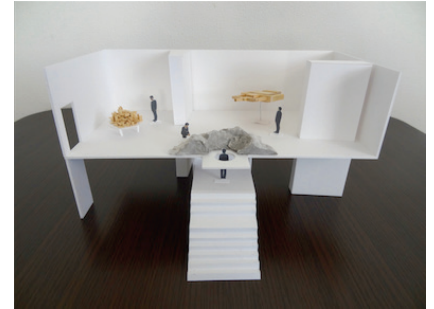
岩崎貴宏

<タイトル>

Upside-down Forest / 逆さにすれば、森 (仮)

<展示プラン>

4点の新作(《アウト・オブ・ディスオーダー》2点、《リフレクション・モデル》1点、《テクトニック・モデル》1点)を中心に、小さな作品数点を展示する。ピロティに階段を仮設し、階段を上ってメインフロアの床の開口部から顔を出せるようにする。それによって、床に置いた《アウト・オブ・ディスオーダー》(工業地帯モデル)を低く近い位置から見えるようにする。



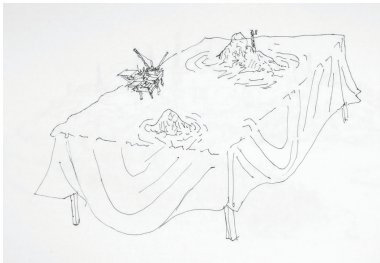
展示スタディ模型 2016年



《アウト・オブ・ディスオーダー》(工業地帯モデル):

メインフロアの中央に床置き
国内の産業やエネルギーを支えてきたススけた科学工場の伽藍(日本の工場のミックス)。上から見ると牧歌的な山の風景、ピロティから見ると、乱立する工業地帯。外側の牧歌的風景が、内側の黒い工業風景を覆い隠す。
参照:雪舟《天橋立図》 素材:墨汁+雑巾(墨汁は木のスス)もしくは、汚れを拭き取ったグレーの雑巾。

画像:《アウト・オブ・ディスオーダー(工業地帯モデル)》のためのドローイング 2016年 ©Takahiro Iwasaki, Courtesy of ARATANIURANO



《アウト・オブ・ディスオーダー》(海洋モデル):

メインフロアの一角に机を置く
自国と他国の境界線を揺さぶり続ける海洋資源開発のオイルリグとその島々。横から水が流れるように皺が出来る。
参照:龍安寺方丈庭園 素材:石油をイメージした黒いタオル、もしくはビニール、黒い化繊布、シート

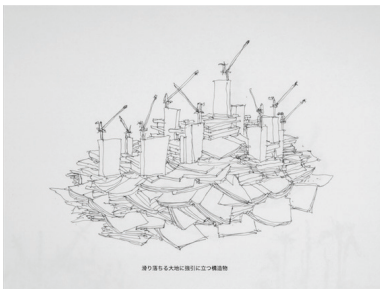
画像:《アウト・オブ・ディスオーダー(海洋モデル)》のためのドローイング 2016年 ©Takahiro Iwasaki, Courtesy of ARATANIURANO



《リフレクション・モデル(巖島)》:

メインフロア入り口反対側に天吊り台風で壊れた巖島神社をモチーフに、水面に映る像と建物を全く同一に作る。素材は檜。物体としては示されない水面の表現、かつ、揺らぎの無い瞬間の表現。巖島神社は、壊れることで力を逃がし、残ってきた。

画像:《リフレクション・モデル(巖島)》のためのドローイング 2016年 ©Takahiro Iwasaki, Courtesy of ARATANIURANO



《テクトニック・モデル》:

メインフロアの出口近くのテーブルの上
本を積み重ねてバベルの塔のような構造を作る。葉からクレーン。
最下部は、本を広げたまま裏返し、層状に積み重ねる。地層・断層、構造の不安定さを示す。本のタイトルをある程度コントロールする。忘却、科学、歴史、自然などに関する洋書。

画像:《テクトニック・モデル》のためのドローイング 2016年 ©Takahiro Iwasaki, Courtesy of ARATANIURANO

<広報用写真>

広報用写真をご用意しております。下記、もしくはリリース内より希望画像の作品名、媒体名、掲載予定時期を明記の上、広報担当:大西(おおにし) venezia@jpf.go.jp までご連絡ください。

【ご使用時の注意点とお願い】

- ・ 写真をご使用の際は画像クレジットを記載ください。
- ・ トリミング、文字載せ、画像の二次使用はご遠慮下さい。
- ・ 使用の際は事実関係の確認の為、記事校正を PDF 形式でお送りください。
- ・ 掲載誌又は、掲載記事を担当者までお送りください。

①



《アウト・オブ・ディスオーダー (川崎シリーズ/日本ゼオン)》
2014年 川崎市民ミュージアム蔵
©Takahiro Iwasaki, Courtesy of ARATANIURANO

②



《リフレクション・モデル (厳島)》2013-14年
ヴィクトリア国立美術館蔵
青森公立大学国際芸術センター青森での展示風景
©Takahiro Iwasaki, Courtesy of ARATANIURANO

③



《アウト・オブ・ディスオーダー (コンプレックス)》2010年
©Takahiro Iwasaki, Courtesy of ARATANIURANO

④



《テクトニック・モデル (マリネッティ)》2016年
©Takahiro Iwasaki, Courtesy of ARATANIURANO

●本事業に関するお問い合わせ: 国際交流基金 文化事業部 事業第2チーム(担当:大平)

Tel: 03-5369-6063 / Fax: 03-5369-6038 / E-mail: venezia@jpf.go.jp

●取材・広報用画像のお問い合わせ: 大西晶子 Tel: 090-9621-5235/ E-mail: venezia@jpf.go.jp